



ICT でコミュニケーション活性化

山形大学教授 野口 徹

こんな視点で
生活科
vol. 1

ICT は、「情報通信技術を活用したコミュニケーション」を意味します。この言葉通り、教育の場で ICT を活用する最も重要な目的は、コミュニケーションの活性化。生活科の学習の中でも、目的に応じて ICT を使うことで、さまざまなものとのコミュニケーションが促進されます。効果的に活用するポイントを、四つ紹介します。

① 学習対象とのコミュニケーション

アサガオの栽培記録にタブレットを活用してみましょう。日々の世話で気づいたアサガオの微細な変化を拡大して撮影したり、コメントを加えたりすると、アサガオとのコミュニケーションが蓄積されていきます。「気軽に撮影できる」というタブレットの特徴が、児童と学習対象とのコミュニケーションを促進してくれるのです。



② 友達とのコミュニケーション

振り返りや共有の場面で、タブレットを活用してみましょう。撮影した写真や蓄積した記録を電子黒板やスクリーンに映したり、相互の画面を共有したりすることで、「ここが似ているね。」「誰も見つけていない大発見だよ。」という声が教室にあふれます。さらに、気づいたことをすぐに書き込んで瞬時に共有できるので、気づきがどんどん膨らんでいきます。



③ 学校外の方々とのコミュニケーション

感染症の流行状況によっては、地域の方々とは直接対面することが難しい場合もあるでしょう。そんなときでも、ウェブ会議システムを活用すれば、コミュニケーションの機会を確保することができます。また、遠隔地の方とのコミュニケーションも可能ですから、児童の関心に応じたコミュニケーションの機会を実現できます。



④ 自分自身とのコミュニケーション

タブレットの中には、自分が活動している写真や、これまで撮影してきた写真、学習記録が蓄積されています。節目節目でそれを振り返り、現在の自分からそのときの自分を見つめることで、児童は自分の成長に気づくことができます。ICT を活用することで、児童は、一段階上の気づきを生み出すこともできるようになっていくのです。



光村図書

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

